

すぎぞ まちこんじゃくしゅういろく 杉戸町令者拾遺録

温古知新
杉戸の
歴史こぼれ話
第11回

創造のプロセス ジョウモン クリテイカルパス

今回は縄文土器の文様に秘められた世界観についてご紹介しましたが、今回は物理的な縄文土器の製作方法についてお話しします。縄文土器の製作工程は、大きく「材料入手」「成形」「乾燥」「焼成」「仕上」の五つのプロセスを経て完成に至ります。まず、粘土は採掘後、不純物を丁寧に取り除き、混和剤として砂や繊維を加えて可塑性を調整します。その後、数日間寝かせることでバクテリアの働きを活用し、粘土の扱いやすさを高めました。次に、粘土で作った紐状の部材を積み上げる輪積整形技法を用いて、土器全体のアウトラインを形成します。さらに、煮炊き中の液体漏れを防ぐため、内面には丹念な「つぶし加工」と「磨き加工」が施され、外面には装飾や文様を加えられました。その後、十分な時間をかけてゆっくりと乾燥させることで、急激な収縮による破損を防ぎつつ、器の強度を確保しました。

一般的に縄文土器は野焼きによって焼成されたと考えられていますが、一部の土器には酸素供給を制御した還元炎の痕跡が認められています。また、薪の配置や燃焼環境の調整により、黒斑と呼ばれる表面の黒色のしみの発生を意図的にコントロールしていた可能性が示唆されます。さらに、使い捨ての泥土窯を構築し、焚き口と煙突を備えることで火力や酸素の流れを調整し、より安定した還元焼成を模索していた可能性も考えられます。炎は、縄文土器を赤々と輝かせ、焼結へと導き、確かな堅牢さをもたらします。やがて熱は静かに引き、土器はその形を定め、現世に定着するのです。

野焼きは天候の影響を受けやすいため、縄文人は風向きや湿度を十分に考慮し、焼成の最適なタイミングを選定していたと推察されます。さらに、土器の乾燥工程では、急激な水分蒸発を避け、均一な収縮を促すために「適度な湿度」が必要でした。そのため、最も適した季節は秋口であったと考えられます。また、「どんぐり」にたかるコクゾウムシが胎土に混入していた事例も、この季節性を裏付ける一助となっています。これらの点から、縄文土器の製作は単なる自然任せの作業ではなく、環境条件を的確に理解し、計画的かつ高度な技術体系に基づいて実践されていたことがわかります。

(社会教育課 町史・文化財担当編)

わが家のアイドル

掲載された方には**特製カード**をプレゼント！
皆さんのステキな1枚をお待ちしています！

詳しくは
こちら▶



QRコードから
簡単応募！▶



P25にも「わが家のアイドル」があります！

えび しま たいが
海老沼 大翔
ちゃん
令和3年11月23日生



えび しま りゅうが
海老沼 琉翔
ちゃん
令和5年12月14日

僕たち
いつも一緒
仲良しなんだ

おりはら りゅうが
折原 羽海
ちゃん
令和6年5月29日生



フワフワな髪と
パンパンな
ほうぺが
自慢でちゅ

はら た しほ
原田 志穂
ちゃん
令和6年3月19日生



はいはいが
できるように
なったよ！

むらまつ ちか
村松 知佳
ちゃん
平成30年4月19日生



おいも
ポニーすま！

やまなか はるまき
山中 陽葵
ちゃん
令和5年6月1日生



綺麗な
お花
見つけたよ

わたらい せいな
渡来 惺七
ちゃん
令和6年10月26日生



辰年
ニューボン
フォト



UD FONT
by MORISAWA

読みやすい書体であるユニバーサルデザイン
(UDフォント)を使用しています。



杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ



杉戸町
公式LINE



杉戸町
公式X